



# 日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り  
第 54 号  
2016年1月20日  
編集兼発行人  
長島 重和

HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI



## 「初出船の朝」

撮影者：大津 博昌  
撮影日：平成 27 年 1 月 2 日  
カメラ：Nikon D-5200  
シャッター速度：1/1000 絞り：f13  
場所：日立市川尻海岸  
撮影余話：私の家は川尻海岸に近く、毎年初日の出と1月2日に行われる漁船の出初式を見るのが楽しみとなっている。  
ピーンと張り詰めた空気の中大漁旗をなびかせながら日の出と共に大海原に出航し、海に感謝しお神酒を蒔いて今年の大漁と安全祈願をする光景は見ているだけでも清々しい。  
これからも同じ風景を見るために健康には気を配りたい。

## 新年を迎えて



### 今後の時代に対応して

支部長 久野 勝邦

明けましておめでとうございます。  
日立社友クラブ茨城支部も日立事業所並びに県内の各事業所のご支援の下に順調に運営されています。そして昨年は老朽化した同好会本部の拠点をどこに移すかが大きな課題でした。幸い、日立事業所のご理解の下に、大みかクラブの1区画を提供して頂き活動が始まりました。関係者のご支援に対しまして厚く御礼申し上げる次第です。

今後大みかクラブを茨城支部及び同好会の大みか拠点として利用するための規則も昨年11月1日付で制定されました。今後色々な形で活用していきたいと考えています。

昨年は戦後70周年の年となり、首相談話も出されました。その中で、歴史から教訓を汲み取り、未来への知恵を学びながら、日本の発展のために尽くすことが強調されています。そして現在の少子高齢化の状況の下で、地方を元気づける地方創生策、そして一億総活躍社会を目指すことが議論されています。

茨城支部便りを見ていますと、茨城支部の皆様の中には、今も尚お元気な方々が活躍しておられます。これからの時代には、シニアの皆様も、色々な形で社会に貢献出来れば幸いと考えられます。

日立理科クラブも発足して8年目となりましたが、その活動が認められて、社会貢献支援財団(安倍昭恵

会長)から“社会貢献賞”を授与されました。  
今後は各種同好会も、一般市民まで含んだ活動として、どの様に拵げていけば良いかを考えたいと思います。  
最後に、皆様並びにご家族の方々のご健康とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

### 茨城支部からのお知らせ

#### 平成 27 年 12 月 茨城支部役員会報告

新会員候補 10 名の入会が承認され、12/10 時点での会員総数は 1,071 名となった。

#### 第 65 期 第 1 回 日立社友クラブ理事会報告

①12/3 現在の会員総数は 6,499 名で前回から 34 名増加。②第 65 回総会の出席者は 889 名で、悪天候のためか、昨年より 120 名減。③日立理科クラブの表彰に関して、庄山理事長より地域社会への日立の貢献を更に広げていきたいとの意思表示があった。

#### 茨城支部大みか拠点開設のお知らせ

日立事業所のご好意により、昨年の 11 月に茨城支部及び同好会活動の新拠点を大みかクラブに開設して頂きました。これからはこの大みか拠点をベースとして、更なる活動の輪を広げていきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### 茨城支部総会のご案内

平成 28 年度第 114 回茨城支部総会の開催を以下に予定しています。一年ぶりに皆様との語らいを楽しみに、多数のご参加をお待ち申し上げます。

1. 期日：平成 28 年 5 月 27 日(金) 11:10~14:30
2. 会場：ホテル天地閣

★詳細内容は別途後報致します。

# 少し大きな字を書いて、書を楽しむ

## 《古典の臨書に学ぶ》

戸島 均



「書道塾に入会しておいたわよ。」突然の妻の言葉から、私の書を楽しむ人生が始まりました。

一二年前、日立総合病院に勤務していたころは、仕事と酒しかありませんでした。息子の野球応援や仕事が終わったとき、私が腑抜けになっ

て呆けてしまうのではないかと、心配したのでした。当時、仕事が終わると、病院のすぐ近くの美味しい焼肉の店、城南町「朝楽苑」で酒を飲んでいました。「鈴木鳴龍書道教室」はその朝楽苑の隣です。妻のうまい策略です。それから、毎週土曜日は、書道塾で稽古してから、朝楽苑で酒を飲むことになりました。

鈴木鳴龍先生は、現在七九歳、書の基本から、丁寧に根気良く指導してくださいました。稽古の主体は、古典の臨書です。昔の人の字を手本にして、練習します。何も趣味のなかった私は、不思議な書の魅力に少しずつ引き込まれてしまいました。

特に、王羲之の行書や草書を書き始めてからはそれに夢中になりました。王羲之は西暦三五〇年ごろの中国、東晋の人で、書の一歩の名人で「書聖」と呼ばれています。私はその頃、東京大学の非常勤講師をしていて、東大での講義の帰りには、神田の古本屋で王羲之などの古典の本を買いあさってきました。しかし、最初に王羲之の草書の本「十七帖」を見たときは、草書は読めませんでした。

し、その字の形もなんだか奇妙で、書いてある手紙文も、病気の話などが多くて、何でこの本が「草書の世界の一の手本」なのか分かりませんでした。二年、三年と書き続け、王羲之の行書、草書のほとんどすべての法帖の臨書が終わるころには、そのすばらしさが少し理解できるようになりました。

書を始めて一年半たつと、半切の条幅を書くようになりました。書でいう「半切」とは、いわゆる掛け軸の一般的な紙の大きさです。半紙よりはずいぶん大きな紙です。毎月、その半切に、王羲之の草書、「宋拓、淳化閣帖」から、十四文字前後を書いて、作品にしています。紙に向かい、筆を硯につけ、たっぷりと墨を含ませて書き始めます。墨は紙の上で溢れかえりにじみとなります。書き進めるにつれて筆の墨は減り、筆の毛先が紙に接すると、次第にかすれてきます。もう書けないくらいになったら、また筆に墨を補給します。筆と紙が接する部分は毛先付近で、筆の残りの部分は墨の補給庫、いわば自動車のガソリタンクです。

落款を書き終えて全体を見れば、潤沢な墨量の字から、かすれた勢いのある字への時間的流れが繰り返されます。筆運びのリズムと合わさると、書は音楽と似た芸術ともいえると思います。古典の臨書は、いわばクラシック音楽を演奏することに似ていて、その場合、書の古典の法帖は楽譜に、筆や紙は楽器に、そして書く人は指揮者に相当するのではないのでしょうか。また、描いた字の小や墨の潤滑は、字の内外の余白と相まって、遠近感が生まれます。すぐれた書作品には、四次元の世界が感じられるのです。

条幅を書き続けて一〇年、最近はこちらに大きな、横二尺、縦八尺の紙に臨書するようになりました。平成二七年八月にシビックセンターで開かれた社中展で、この大きさの作品を三点出展しました。娘と孫と一緒に写真に撮りましたので、作品の大きさがわかると思います。最初の写真の左の作品は、王羲之の淳化閣帖の中の「七十帖」の一部(草書)です。右は清の呉昌碩(西暦一九〇〇年頃)の書いた般若心経の一部の臨書作品(篆書)、二つ目の写真は、唐の顔真卿(六五〇年頃)の臨書作品(行書)です。書をやられていない方には分からないと思います。

が、下手くそです。私は、書いている時の、爽快感とどうか、書き終わった時の達成感みたいなものがすごく楽しくて続いています。ただ出来上がった作品を展覧会で展示されると異常な恥ずかしさを感じました。最近は何れにも慣れてきました。うまく書くこうとするのを止めました。うまくは書けないのを悟りました。展覧会の賞や段級などには興味なくなりました。

最近、「いい書」「悪い書」というのが分かってきました。書には、上手な書と下手な書、そして美しい書や醜い書、豪快な書や貧弱な書などがあります。一見、下手に見える書でもいい書があり、醜い書や貧弱な書に見えてもいい書があるのです。逆に悪い書とは、奇を衒い、ウケを狙い、うまく見せようと画策した書だと思えます。

このように感じ出したのも、旭町の「ホテル天地閣」の隣の寿司の「門部屋本店」で知り合った会社社長でもある関雲外先生が、東京の書道展を案内して下さったり、明治、大正、昭和の偉大な書家の書の現物を見せて教えて下さったことが大きいです。書を通じて友人、知人が増えるのも楽しみです。あと一〇年続ければ、いい書とは言えずとも、少しはましな書が書けるのではないのでしょうか。

戸島 均氏 連絡先  
〒317-0073 日立市幸町1-7-7  
ニュークリニック日立  
とじま耳鼻咽喉科クリニック内  
電話 0294-27-3387



作品と孫  
平成27年8月 社中展



作品と娘親子  
平成27年8月 社中展

リレー随筆 (54)

(日)文芸部の思い出

船渡川 俊

手元に古い B5 のファイルがある。ファイルしてあるのは昭和 34 年 10 月から同 46 年 7 月までの日立会文芸部発行の「俳句」、文化部総合会報「ぶんか」と「ぶんか」中止の後の文芸部「ぶんげい」である。赤茶けたわら半紙の頁から、工場の文芸が花と開いた隆盛時代が漂って来る。昭和 40 年 11 月に「ぱんぼん」百号が発行された、まさにその時代である。



「俳句」は B5 版 2 段組みで 4～8 頁である。残念ながら創刊号から第 4 号まで持っていない。

この第 5 号の巻頭は、升水砂光氏(労二・升水博氏)の写生の題名での俳句における写生の小論を掲載してある。文芸部長の檜垣登器具設課長が巻頭文の中央に囲みで「霧ひ来る海に魚紋の消えゆけり」他 2 句で巻頭頁を飾っている。5 号には、本社日立工場共催俳句大会の成績が載っている。この俳句会に女流俳人の中村汀女氏を招いている。巻頭文で「昭和 34 年 10 月 4 日には虚子門で星野立子と並び称される中村汀女氏が来た。本社の俳句部の講師である。」と紹介している。中村汀女氏を講師に招くことが出来る本社俳句部の力に今更ながら驚くばかり。当然ながら日立会俳句部講師の地元日立の俳誌「かびれ」主宰大竹孤悠氏も汀女氏と同席している。本社の出席者は 11 名と大勢の方が来られた。

中村汀女講師特選は「荒涼と雨を兆せり秋の浜」小松崎爽青氏(国分、その後かびれ第二代主宰)、「児の土産秋の浜辺のうつせ貝」笹軟泥氏(本社)。大竹孤悠講師特選は「太陽は黄に秋の海舟もなし」桜井啓祐氏(日立化成)、「浜の子に今日が暮ゆく 鰯雲」中村直弥氏(本社)、「秋の蝶浜のすゝきに見失なう」畠山久仁子(日病)。

第 10 号(昭和 36 年 3 月)にもビッグな俳句会がある。昭和 36 年 1 月 7 日の日立工場新年俳句大会報告である。「夏草」主宰の山口青邨氏を招いている。

同行の人は夏草の高弟、及川あまき氏、石原透氏、本橋仁氏の方々が載っている。青邨講師特選 6 句の中の 2 句は今でも覚えている。一つは「寒に入る工場一大公園なす 石原透」である。東京から来ていただき工場を見学され小平台から見た工場を詠んだ句である。もう一つは「娶らぬ君がなくさ粥を吹き食らふ 立花ひかる」である。秀逸の「芽麦畑見てタービンの翼に立つ 本橋仁」には、工場も句に詠めるんだと驚いた記憶がある。この句は大竹孤悠講師特選にもなっている。

以後「俳句」の内容は、終刊 41 号まで続いた巻頭文、俳句部月例句会の例会報、紙上句会報告、俳句に向かう姿勢や随筆などである。巻頭は 800～1000 字程度の文である。



筆者保存の「俳句」第 5 号 (昭和 34 年 10 月発行)

同好会行事に参加して

「野鳥自然観察」

高木 宣輔



探鳥会に参加するようになってもう 13 年を超える。信州の田舎で育ったこともあり、厳しい自然の中で、巧みに力強く生きている鳥たちを観るのは好きである。その姿から感動を貰えるので、出来るだけ機会を作り参加している。

我が家は日立市内茨城大学に近い住宅密集地にあるが、多少庭が広く敷地のすぐ横を鮎川が流れているためか、四季を通じて多くの野鳥の訪問を受ける。遡上する鮎を狙うダイサギやジョウビタキなど 18 種類に及ぶ。

最近(9 月末)珍客の訪問を受けた。門の内側にカモの成鳥が一羽殆んど無傷のまま死んで横たわっていた。普段考えられない場所と鳥であり、今もってどんな形で来たのか信じられない思いである。とにかく自然の中に野鳥の姿を追い求め歩き回することは、体と心の健康維持にも貢献するので、今後も可能な限り参加していきたい。

「料理教室」

奥村 清



昨春、社友クラブに入会させていただき、今春から料理教室に参加、料理作りを勉強しております。

教室は月 2 回、第 2・第 4 月曜日に実施、毎月 20 名強で、毎回の参加者 10 名余を 2 班に分けて勉強しております。

2 年前から高橋友子先生のご指導のもと、和風・洋風・中華で毎回異なった各種料理を作ります。作業は各自勉強したいものを分担して作ります。

参考までに 11 月のレシピを紹介します。1 品目は鶏の挽肉を使った坦々肉みそ丼、2 品目は長芋のマリネサラダ、3 品目のデザートはパン粉クッキーでした。デザートは土産としての持ち帰り用を含めて余分に作り家族に喜ばれました。

今後腕を磨き、家でも料理が作れるように習得していきます。

「パソコン専門講座」

大越 健児



専門講座は、10 年程前に始まった特定ソフトの入門講座・勉強会が発展したものと記憶します。私は開始以来多くの講座に参加してきました。

Acrobat、Dreamweaver、Photoshop Elements など Adobe 関連ソフトや Excel マクロ & VBA といったものです。いささか専門的なソフトになると、個人で勉強してもなかなか理解できない(身に着かない)、その点多数で情報を交換しながら 1 講座 10 回程度の講義で勉強するのは効果があります。専門講座では輪番制で講師を担当することが多いのですが、安田世話人の厳しくも丁寧なサポートによって無事講師を務めることができますと理解も進みます。

私は現在パソコン関連の 3 つのグループに関係していますが、専門講座で学んだことが資料やテーマ造りに大変役に立っています。

## 同好会の行事ご案内（2月～4月）

### 1. 第67回研修会

#### [成田航空博物館見学と成田山新勝寺参拝]

圏央道のつくば JCT と大栄 JCT が開通した機会に成田航空博物館、成田空港 空と大地の歴史館、三里塚御用牧場記念館、他を見学し、帰路に成田山新勝寺を参拝致します。皆様の参加をお待ちしております。

- ・開催日：平成 28 年 3 月 16 日(水)
- ・集 合：大甕駅前(常陽銀行大甕支店前) 8:00  
日立電鉄交通サービス南営業所 8:20
- ・帰 着：大甕駅前 17:25 頃の予定
- ・会 費：6,000 円予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人員：先着 40 名
- ・申込締切：1 月 30 日
- ・申 込 先：石田 和夫

Tel/Fax : 0294-34-0209

E-mail : ishida.kazuo@nifty.com

### 2. 第64回歩こう会【勝田駅近郊の桜】

例年の桜の花見ウォークを、今回は旧勝田市内、桜の名所めぐりで計画しました。それぞれの事業所内を歩くことも出来ます。花の香りの中で、皆さんと共に春暖の楽しいウォーキングをしましょう。

- ・開催日：平成 28 年 4 月 7 日(木) 雨天 4 月 14 日(木)
- ・集 合：JR 勝田駅東口交番前出発 10:15  
JR 時刻：勝田着上り 10:03 下り 9:46
- ・コ ー ス：勝田駅出発 10:15→日立工機構内→  
自衛隊勝田構内→市立石川グラウンド  
(昼食)→旧勝田工場構内→勝田駅東口着  
14:00 解散 平坦地 6.0km
- ・持 参 品：弁当、飲物、雨具等
- ・会 費：200 円(非会員 500 円)
- ・申込締切：3 月 31 日(木)
- ・申 込 先：歩こう会南地区世話人 垣貞 玲吉

Tel/Fax : 029-274-1727

E-mail : kakisada@ae.auone-net.jp

### 3. 定例行事予定一覧（開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡致します。）

グループ名	連 絡 先	実施日(曜日)			場 所	時 間	備 考	
		2 月	3 月	4 月				
野鳥自然観察 グループ	高原邦明 0294-53-7101 k-takahara@rio.odn.ne.jp	15(月)			涸 沼	9:00～	参加費:¥300/回 原則雨天中止	
			21(月)		高戸海岸	9:00～		
				25(月)	水沼ダム	9:00～		
囲碁の会	日立 地区	助川一弥 080-3443-3577 kazy.sukegawa@net1.jway.ne.jp	10(水)	9(水) 大会	13(水)	大みか拠点	10:00～ (大会 9:30～)	参加費:¥100/回 大会:¥1000
	勝田 地区	七海 清 029-273-8450 fwny8718@mb.infoweb.ne.jp	24(水)	23(水)	27(水)			
料 理 教 室	澁口七郎 0294-43-5134 s-shibuguchi@net1.jway.ne.jp	8(月)	14(月)	11(月)	明治商会	10:00～	参加費:¥1700/回	
		22(月)	28(月)	25(月)				
卓 球 ク ラ ブ	綿引邦彦 0294-37-1491 perroygato4923@net1.jway.ne.jp	3、10 17(水)	2、9 16(水)	6、13 20(水)	会瀬体育館	9:00～ 12:00	参加費、会場費等 まとめ:¥4500/年	
デジカメ ク ラ ブ	若島喜和 0294-24-2425 wakasima@net1.jway.ne.jp	1(月)	7(月)	4(月)	大みか拠点	10:00～ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む	
写真五七五	武田孝一 0294-36-1469 takedaks@future.ocn.ne.jp	5(金)	4(金)	1(金)	大久保 交流センター	9:00～ 12:00	参加費：¥300/回 昼食別途	
パ ソ ン グ ル ー プ	HP の会	中村 進 0294-52-5525 ssm2332@knh.biglobe.ne.jp	2(火)	1(火)	5(火)	大みか拠点	10:00～ 15:00	参加費：¥200/回 昼食別途
	基礎講座	安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	9(火)	8(火)	12(火)	大みか拠点	10:00～ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む
	勝田地区	渡部喜久雄 029-282-7633 kikuo_wa@d1.dion.ne.jp	23(火)	29(火)	26(火)	ひたちなか市 ワークプラザ	13:15～ 16:00	参加費：¥700/回
	続 PSE13 講座	安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	19(金)	18(金)	15(金)	大みか拠点	10:00～ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む
ExcelPT 講座	25(木)		24(木)	21(木)	大みか拠点	10:00～ 15:00	参加費：¥1000/回 昼食代含む	

注) 旅行会(連絡先; 安田 出)は、開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

### 訃 報

衷心よりご冥福をお祈り致します。

鬼沢 孝雄	平成 27 年 02 月 27 日	享年 92 歳
神山 清次	平成 27 年 06 月 27 日	享年 86 歳
小澤 博	平成 27 年 07 月 16 日	享年 67 歳
細田 泰生	平成 27 年 09 月 15 日	享年 87 歳
石原 政男	平成 27 年 10 月 09 日	享年 81 歳
戸島 日出雄	平成 27 年 10 月 14 日	享年 87 歳
齋藤 茂樹	平成 27 年 12 月 11 日	享年 76 歳
岩尾 稔直	平成 27 年 12 月 12 日	享年 80 歳
加納 勝好	平成 27 年 12 月 23 日	享年 71 歳

### 編集後記

会員の皆様、あけましておめでとうございます。昨年の漢字一文字は「安」でした。本年は真に安全な年であって欲しいものです。

船渡川さんのリレー随筆で紹介された工場の文芸隆盛時代を再現すべく、「俳句」記念号を発行できないのでしょうか。戸島さんの会員投稿、氏は栄誉を目標とせず「いい書」を求める書道とされました。稽古事を始めようとしている方の一つの指針となりそうです。本号は大みか拠点での編集 1 号となります。 **長島 重和**